

平成31年 3月25日

1、本園の教育目標並びに保育の重点

<教育目標> ・意志の強い実行力のある子ども ・健康で明るい素直な子ども ・心が豊かでびのびと表現のできる子ども  <保育の重点> ・大勢の子どもたちの中から、気の合う友だちを見つけ、遊びを楽しむ。 ・異年齢の子どもたちとふれ合いの中で、優しい気持ちや思いやりの気持ちを育む。 ・様々な子どもたちとふれ合うことでトラブルもあるが、こうしたふれ合いの中で人とのかわり方をたくさん学んでいく。 ・様々な場で、思いの伝え合いを楽しむ。 ・お互い刺激し合いながら、いろいろなことに挑戦する。
---

2、本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

・新幼稚園教育要領を理解し、それに沿った保育をする。 ・教師自らが客観的に自園を見る目を養い、環境構成、教育内容の改善に主体的に取り組んでいく。
---

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
(1) 豊かな心と健やかな身体を育むための遊びの環境構成や体験活動の内容、教師の関わり方を考えて教育の充実に努める。	B	遊びの記録をとり、毎週のミーティングで遊びを深めてきた。持ち回り仕事との兼ね合いで継続が難しかった。
(2) 子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	B	保育記録をとり、園内研修で読み取りを深め、園全体で援助等を考えてきた。
(3) 子どもの良さを認めて評価しようとしている。	A	子ども達一人ひとりと向き合い、それぞれの良さを認めようとした。10の姿を受けて細やかな視点で一人ひとりの良さを認めようとした。
(4) 各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供する。	A	新教育要領の施行について積極的に研修会等に参加し、得た知識を共有し合った。
(5) 幼児期にふさわしい生活リズムを整えるための家庭との連携に努めている。	A	園だより、保健だより等で家庭への情報提供に努めた。内科・歯科健診結果の通知とフォローに努めた。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	客観的な目で自らの教育、保育を振り返り、さらに充実した実践ができるように努力を積み重ねている。

5、今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己点検、自己評価	互いの保育を客観的に見る目を養い、各教職員がさらに自己研鑽に取り組むようにしていく。
学期ごとに各クラスの成果と課題を共有する。	他の学年の学級経営について共有し、よりよい保育環境を指摘し合うことができるようにしていく。

6、学校関係者評価委員会の評価

評価	氏名	印	評価	氏名	印
B	上 一 一		A	二 三 三 三	
B	三 三 三 三		A	三 三 三 三	
A	三 三 三 三		A	三 三 三 三	

7、設置者の評価

評価	氏名	印	コメント
B	天笠 善照		家庭・小学校・行政と積極的に連携を図りながら幼時共育の推進に努めている。

評価結果の表示方法  
 A：たいへんよい  
 B：よい  
 C：一部検討を要する  
 D：改善を要する